

情報入手方法の違いが政治知識に及ぼす影響

1220475 嶋田和弥

指導教員 肥前洋一

・研究背景

インターネットの普及率が9割近くになり情報入手方法が増えた。さらにポータルサイトやニュースキュレーションアプリでは人工知能が搭載されているので人の傾向に合わせて記事やサイトが出てくるようになってきているので入手する情報に偏りが出やすくなることが考えられる。

・研究目的

人工知能が搭載されたインターネットを利用して情報を入手すると自分の関心のない情報に触れにくいことが先行研究で分かった。

テレビや新聞とインターネットで情報を入手するのに政治知識の差が生まれるのかを調べる。

・調査・分析方法

東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから〔「ウェブ利用と政治知識に関する調査, 2014-2015」(関西学院大学社会心理学研究センター(稲増一憲・三浦麻子))〕の個票データを利用し普段どのメディアを利用するかの質問を列、政治に関する質問を行にして表を作り、正答率を比較した。

・分析結果

政治に関する情報を直接、得られる情報入手手段の正答率が高く、テレビや新聞とインターネットの正答率はほとんど差がなかった。

・考察・結論

今回の研究では情報入手の違いから政治知識の差がある結果が得られなかったが政治に興味があるか、職業などの個人に関する他の属性が政治知識の差に影響を与えている可能性がある。今後はそこを考慮することで分析できるとよりよくなる。